

◆模範解答◆

- [1] 1 イ・オ
2 イ・ウ
3 ウ・エ
4 イ・ウ・オ
5 ア・イ
6 (出題ミスにより全員加点)
7 (2番目) イ・⑨ (4番目) オ・⑧

- [2] 1 ア・オ
2 ウ・オ
3 ウ
4 イ・ウ
5 エ
6 ウ→ア→(カ)→オ→イ→エ
7 イ・エ

- [3] 1 (例) 広告料収入が得られるから。(13字)
2 ア・ウ
3 ア・イ・ウ
4 ア・ウ
5 エ・オ
6 ア・エ

【講評】

各大問のおおまかな出題分野を見ると歴史・地理・公民となっていますが、小問ごとに見ていくと分野をまたいだ問題もあり、総合的な学力が問われる入試となりました。出題形式は、例年と同じく適文(誤文)選択や並べかえがほとんどで、しっかりと対策を行った受験生にとっては「いつも通り」の問題だったと思います。問われていること自体もその多くが想定されるレベル内であり、合格ラインは8割前後と予想されます。

[1] 日本の自然災害の歴史を題材とした融合問題

- 1 自然災害へのさまざまな対策(中)
2 木曾三川と濃尾平野の地誌(易)
3 江戸時代の文化(易)
4 関東大震災(易)
5 さまざまな地域の行事・風習(易)
6 明治時代の出来事(易) ※出題ミスのため全員加点
7 日本の自然災害の歴史(並べかえ・場所選択・易)

※ 問題レベル(中・易など)は、筑駒受験生の一般的なレベルを基準とした難易度です。

基本的な知識や理解がほとんどで、落ち着いて本文や選択肢を読んでいけば正解にたどり着くことができます。1では、選択肢オで何の脈絡もなく「首都圏外郭放水路」が現れるので、この知識があるかないかで差がついたかもしれません。5では選択肢の中に「大嘗祭」や「ハロウィン」が出てきたり、7では御嶽山の噴火や熊本地震などが問われたりと、ふだんのニュースや生活の中からもさまざまなことを学び取ろうという姿勢が大切だということも分かります。

〔2〕海洋プラスチック汚染を題材にした融合問題

- 1 北極と南極（易）
- 2 日本の漁業（中）
- 3 「太平洋ごみ地域」と海流（易）
- 4 中国の地理や政治について（中）
- 5 プラスチックごみの海洋流出を削減する方法（易）
- 6 工場見学に関する手順（並べかえ・易）
- 7 リード文の読み取り（易）

近年、世界的な問題となっている海洋プラスチック汚染についての出題でした。各小問はほとんどが平易なことを問うものですが、一部にはまぎらわしい選択肢もあるため、理解が不十分だと正解までたどり着くことができないようになっていきます。2ではそれぞれの選択肢で、都道府県別の漁業生産額、青森県の養殖業、潮目で漁獲量が多い理由、漁業種別の漁獲量推移、日本の水産物消費量についての理解が問われていて、一つでもあやふやな選択肢があると正解が難しくなっています。4も同様で、中国に関してくわしい知識と理解が求められる問題でした。一方で、5や7はリード文をしっかり読み取れば正解を導き出せるので、こうした問題で取りこぼしをしないことが肝要です。

〔3〕学校給食をテーマにした融合問題

- 1 動画共有サービスが成り立つしくみ（20字以内の記述・易）
- 2 世界や日本の貧困・福祉政策（易）
- 3 日本の食料生産と自給率（中）
- 4 給食の調理方式の比較（易）
- 5 地方議会のしくみ（易）
- 6 学校給食の課題（易）

世界的に見ても特徴的な日本の学校給食について、その意義や課題について紹介するリード文を読み、各小問に答えていく出題でした。動画共有サービスの利潤を生み出すしくみや、子ども食堂・フードバンク・食品ロス・SDGs（持続可能な開発目標）など、時代を反映した内容が多く盛り込まれています。幅広い知識と理解に加え、日ごろから社会の諸問題を意識して学習に取り組めるような、筑駒受験生らしい「視座の高さ」が求められているといえるでしょう。